

# 各地区業況アンケート結果（29年9月調査分）

（29年9月25日）

全国鉄鋼販売業連合会

9月22日締切で、当会役員151名に対しこのアンケートを行ったところ79名の回答があり（回答率52.3%）その結果が下記のとおりまとまりましたのでご報告致します。なお、本結果は鉄流懇など重要会議に資料として提出しています。

※  $DI = (A \times 2 + B \times 1 - D \times 1 - E \times 2) \div \text{総回答数} \times 100$ 、（数は回答実数）

## 1. 前年同月比数量増の企業は4割弱に増加

問1】貴社の8月（先月）総売上数量・総売上金額は、前年同月と比し如何でしたか？（答）

	A. 10%以上増	B. 5%以上増	C. ほぼ横這い	D. 5%以上減	E. 10%以上減	計	前回
売上数量/前年同月比	15	15	30	14	5	79	74
比率	19%	19%	38%	15%	9%	DI+27	DI+12
売上金額/前年同月比	24	12	31	10	2	79	74
比率	30%	15%	39%	13%	3%	DI+58	DI+39

## 2. 黒字は5割弱

問2】貴社の8月（先月）の鉄鋼部門における企業収益状況は、如何ですか？（答）

	A. 黒字	B. 若干黒字	C. 収支トントン	D. 若干赤字	E. 赤字	計	前回
企業収益状況	15	24	29	7	4	79	74
比率	19%	30%	37%	9%	5%	DI+49	DI+59

## 3. 全向け先でDI値プラスに

問3】貴社の営業窓口から見て9月（今月）の販売量は、前月に比し如何ですか？（答）

	A. かなり増加	B. やや増加	C. ほぼ横這い	D. やや減少	E. かなり減少	計	DI	前回
公共建設向		17	28	11	2	58	+3	-18
民間建設向		27	30	10	1	68	+22	+16
自動車向	1	11	29	3		44	+23	-3
その他需要家向		20	41	8	1	70	+14	-6
仲間取引	2	15	37	10	2	66	+8	-17
計	3	90	165	42	6	306	+14	-5
比率	1%	29%	54%	14%	2%			

## 4. 秋需への期待感高まる

問4】貴社における向う10月から12月までの需要動向について貴殿の予測は如何ですか？（答）

	A. 増加	B. 微増	C. ほぼ横ばい	D. 微減	E. 減少	計	前回
短期需要動向予測	16	43	15	3		77	71
比率	21%	56%	20%	4%		DI +94	DI +80

## 5. 薄板類不足ぎみに

問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか？貴社の取扱品種のみについてご記入ください。(答)

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	品種別	A	B	C	D	E		9月
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	需給状況	非常に不足	不足気味	需給均衡	過剰気味	非常に過剰	計	D I
-30	-24	-38	-28	-19	-26	-21	-28	-17	-31	-24	-29	鉄筋用丸鋼		1	23	5	1	30	-20
-15	-14	-17	-11	-5	-3	-11	-7	-8	-14	-3	-13	構造用丸鋼		1	26	5		32	-13
-8	-3	-8	-7	-5	-3	-7	-7	-7	-11	-12	-9	平角鋼		1	33	3		37	-5
4	16	26	58	38	26	21	7	4	-18	0	0	H形鋼		8	22	3		33	15
0	4	0	18	0	-23	-4	0	-5	-16	-26	-13	コラム		4	17	4		25	0
-10	-10	7	6	2	-6	-3	-3	-7	-10	-16	-13	小形山形鋼		4	31	4		39	0
-16	-10	7	11	7	-6	-12	-6	-10	-26	-19	-16	中形山形鋼		3	31	5		39	-5
-7	-10	3	15	10	3	-12	-9	-10	-24	-22	-5	溝形鋼		5	28	4		37	3
-19	-14	-13	-11	-9	-20	-15	-11	-4	-19	-20	-13	軽量形鋼C形		2	24	5		31	-10
-22	-20	-20	-20	-12	-19	-10	-9	0	-9	-20	-5	軽量形鋼広巾			18	4		22	-18
-33	-23	-15	4	36	32	39	28	17	9	7	3	冷延薄板	2	7	23	3		35	23
-20	-19	-6	-3	21	22	16	17	0	3	-12	-9	熱延薄板	1	5	28	3		37	11
-27	-22	-7	26	62	42	58	56	30	16	-3	-6	表面処理鋼板	3	11	24	1	1	40	35
-27	-22	-18	33	100	89	85	57	52	32	9	14	酸洗鋼板	3	12	25			40	45
-24	-23	-9	3	30	38	23	14	0	-13	-11	-5	中板		8	27	4		39	10
-24	-23	-6	-5	18	16	10	-3	-6	-8	-19	-19	厚板		2	32	4		38	-5
-13	-5	-7	-11	25	22	5	-6	-6	-19	-7	-18	極厚板		1	17	1		19	0
-14	-11	-8	-14	-11	-11	3	-7	0	-6	-11	-9	縞板		2	29	4		35	-6
-22	-23	-20	-15	-16	-18	-23	-6	-19	-16	-28	-14	中径角			35	6		41	-15
-12	-17	-16	-15	-16	-8	-12	0	-9	-15	-23	-13	ガス管黒		2	33	7	1	43	-16
-16	-15	-17	-13	-11	-12	-9	3	-9	-11	-21	-18	構造用鋼管		1	32	7	1	41	-20
-17	-14	-8	2	11	6	7	4	-1	-9	-14	-10	計	9	80	558	82	4	733	1

## 6. 流通は秋需に期待しながら価格転嫁に尽力

問6】貴社の地域の景況、主力取扱品種の需要動向は如何ですか？地域の特殊事情・需要動向・信用問題などを織り交せて、概況をお知らせください。(答え)

北海道	A	ファブは非常に忙しくピークを迎えている。6、7月と出荷は落ち込んだが、8月から上向いている。建築物件はあるが、プラント関連は今ひとつである。
	B	北海道の丸棒はスクラップ高を受けて高止まり状態である。S造が多いため、道央圏以外は徐々に需要が少なくなっている。様子見が続く。
	C	市況は各品種ともメーカー値上げで強含み感が出ている。倉出版売は少なく、好転した実感はない。採算確保するため唱えアップに出ているが、市中への波及にはまだ時間が必要である。
東北	A	一次加工は盆前、忙しい状況だったが、盆明けは落ち着いた状況。価格は9、10月と値上げ一色である。10月以降の一次加工はどこも一杯の様子である。
	B	メーカーは値上げに向けて気合充分。こちらは6万円以上の鉄筋では買うものなし。
	C	秋以降の需要に期待しているが、現状、大幅な変動が見えていない。エネルギー関連の仕事が動いている。伸びは期待しないが、下らないことを期待する。
新潟	A	8月まで盛上りはない。今後のメーカー再値上げの予想に対し、価格転嫁が懸念される。秋需に期待。
	B	中小物件で短納期である。価格転嫁を強く推し進めていかなければならない。
	C	値上げの勢いを欠いていたが、電炉メーカーの値上げが追い風となるのか。秋需に期待しつつ値上げを実行していきたい。
	D	H形鋼をはじめ形鋼類の値上げの徹底が急務である。
	E	前月同様、ひも付き好調、店売り不調。
	F	9月になっても荷動きは良くない。ただし、鋼材価格は海外要因から値上げが進行している。状況説明を丁寧にしながら、メーカー値上げに追従していきたい。
	G	秋需の暖房関連などの季節商品、自動車向けは増加傾向。建築関連は関東案件中心にファブは受注残確保しているが、地場物件は少なく秋以降に期待。値上げ活動継続も価格転嫁は道半ばになっている。
川口		5～6月のピークから減少が続いている。8月は盆前に注文が集中する偏りが目立った。
神奈川		業界で濃淡はあるが、少しずつだが回復傾向にある。価格転嫁できない分野もあり、引き続き交渉を重ねている。
東京	A	(鋼管)8月以降、荷動きに大きな変化はない。溶協品は9月に入り、値上げの浸透が進みはじめ、市況は強含みである。
	B	市況上げの足並みが揃ってきた。メーカー、流通ともに追い詰められたからである。
	C	タイトな環境である一方、メーカー値上げ転嫁の進捗が悪く、苦しい状況が続いている。
	D	夏休み明け以降、やや仕事量が落ちている感があるが、市況はもう一段の上げに転じている。10月以降、ユーザー単価の値上げが急務と思われる。
	E	工作機械、建設機械、建築、建設、配電盤分野など生産を伸ばす客先が増えてきた。本格的に盛り上るのは10～11月である。材料が上った分、価格転嫁できない客先が散見される。収益状況を確認する必要がある。

東京	F	日当りの出荷量は前月比2%増加した。市況上昇ムードがない中の荷動きだった。需要が出てきたという感触はないが、見積りが増えてくるのは確かである。「まともな値段で決まってくれよ」と鉛筆なめなめ見積書を作っている。
	G	メーカー値上げ分の転嫁が出来ず、採算が厳しい。
	H	先月に比べ、稼働日数が少なかった分、数量も減少している。数ヶ月同様の動きが続いている。
	I	(薄板・店売り)荷動きは過去にない低レベル数量の店売り環境になっている。
	J	8月の出荷量は本年最高であった。初めてのことである。関東圏の建築需要の動き出しが例年より早く量も多いのに加工能力が不足して対応しきれない。外注先も忙しく受けてもらえなくなってきた。加工賃見直し、設備補強しても良い状況である。
	K	(コイルセンター)高炉メーカーの強硬な値上げにより大幅な赤字の月次となった。相場の改善とユーザー向の売値は値上げを早急に実施しなければならない。表面処理鋼板は高炉メーカーのトラブルもあり、メーカーからの供給に不安があるので店売りを中心に採算の合わないものは売り止めせざるを得ない。
静岡	A	スクラップの上昇を受け、鉄筋、形鋼の販売価格も上ってきた。物件も細かいものが多いが少しずつ増加してきている。鋼板はプロパー分に関して市場のタイト感もなく、価格転嫁は出来ていない。
	B	店売り鋼板の価格転嫁は、もう一段行わざるをえない。自動車集鋼価格の値下げにより上げきれない状況で下げに転じてしまいそうな困った形が見えてきた。各品種ともこの地区の需要は盛上に欠け、材料も一部を除いてタイト感もないため、我慢できない流通が安値を提示していく悪循環が見られる。
	C	地元鉄骨ファブの繁忙は恐らく年内から翌年初めまで続く。他県のファブは流通経由で仕事かきている。これは与信やトラブルの回避のためなのか。直談希望である。某産業筋において今年11月頃から「鉄鋼製品値下げ」との情報をもって大型案件契約を画策しているらしい。迷惑極まりない。地元の公共案件で入札額が億単位の物が動き始めている。弊社の建築金物工事担当者が現場の人手不足のため振り回されている。
	D	ここへきてメーカーのもう一段の値上げの案内があった。量を我慢してでも値上げ分を転嫁する覚悟が必要である。
石川	A	当地区において今後、新しいホテルの建設が多く見込まれているが、将来、供給過多に陥る事態が懸念される。
	B	陸の輸送業界の取引正常化と改善策を国交省が早急に具体化して実施してほしい。メーカーの得意先によっては虫けらのように下を見ているものが多い。そんな荷主は、とぼっちりを受けるべきである。
富山		鉄筋、プラント、住設、土木ともに低調。観光関連は落ち着いてきた。オリンピック関連と重なる工期の地元物件が入札不調に終わった。関東からゼネコン等の工務担当が直接きて下請先を探し始めているが、不確定要素が多くまとまらない。一時期需要が高まっても供給がおぼつかない様相。
福井	A	8月は稼働日数の少なさもあり、荷動きは低調。9月になって地場の中小物件が多少出てきているが盛上に欠ける。
	B	県内の物件はだけでなく県外からの仕事が多くあり、ファブは大変忙しい。仕事を引受けてくれるところを探すのに苦労している。販売単価は形鋼関係でキロ2~3円上った。これからの仕事量とメーカーの価格動向がどうなるか注目している。

岐阜	A	同業者間の競合が数ヶ月前から減少した。皆それなりの受注があるということと捉えている。その中で地域外の大手問屋が小ユーザーにサービスしている。キーワードは親会社からの指示、安単価、小ロデリバリー、女性営業など。もう少し良いアイデアがないか。
	B	客先により需要に偏りが見られる。ただ、建築関連を中心に需要は上向いてきており、今後に期待が持てる。運送経費は需要の短納期から増加している。
愛知	A	需要が出てくる雰囲気はある。年末にかけて期待大である。ただ価格が自動車のひも付き価格が下り、店売り価格が上るという状況が、これからどうなるか心配である。
	B	建築関係は加工の忙しい状況が続くと思われる。設備の架台などの仕事も出ているが仕事に濃淡がある。パレット関係は10月以降に期待している。
	C	7月は想像以降に悪かった。8月は数量に不満があるが中身は改善された。家具は昨年並になったが、今後の見通しは不透明である。自動車関係、昨年比マイナス。大手向け価格は値下げが決定。一般向けはメーカーの更なる値上げを表明している。陳列関係は厳しい商況が継続。先行きも期待できない。大手企業は忙しいようだが、我々の分野は総じて緩慢な荷動きである。コイルがタイトだと言われているが、実感が湧かない。但し、業種によって盆休み明けから荷動きが少し良くなってきた。
	D	遅れていた物件が動き出したのはいいが、あまりに短納期のためこなしきれない。しかし、仕事はそれなりに持っているので、期待感が高い。今月に入っての荷動きが重荷になる。価格転嫁は難しい。足元の収益は非常に厳しい。
大阪	A	8月以降、スクラップ価格が上昇し、メーカーが値上げに動き、盆休み以降、販売価格を押し上げる動きとなった。先高感が台頭し、各社値上げの動きとなり、在庫の引合いが増加した。9月に入り、少し落ち着いたが、スクラップの基調は変わらない。また、副資材の価格アップも織り込み、さらにメーカーは値上げの方向である。例年10、11月は荷動きも良くなるので、採算をよくするためにも販売価格を更に上げていかなければならない。
	B	(鋼製家具)オフィスデスクは目立った物件はないが、チェアの買い換えなどの需要が出ている。スポーツ施設、入浴施設向けロッカーや宅配ボックスが動いている。(配電盤製造：電気メッキ、酸洗鋼板)人手不足や工期遅れの影響もあるが、各社とも忙しくなっていており、徐々に需要が出てきたと考える。(スチールサッシ、ドア製造)マンション、インバウンド向けホテル、物流倉庫の建設など関西でも需要が出てきていると思われる。
	C	目立った大型物件はないものの中小物件を中心に動きはまずまずである。9月以降の動きも多少見えてきたので、今後に期待したい。住宅や宅地造成は力強さに欠けるものの底堅い動きは継続している。
	D	電炉品の値上げもあり、メーカーでは10月以降の追加値上げの話が出てきており、市況は強含みである。
岡山		造船関連が悪く、先行き不安である。
香川		8月は実働日数も少なく、低調のまま推移した。9月から本格的な値上げに入ったが、需要が今ひとつのため、段階的に進めていく。今回、値上げを浸透させないと流通は危機的状況となる。
北九州	A	メーカーサイドからの値上げ環境は、かなり整ってきているようだが、末端需要はまだ勢いがなく、価格転嫁が難しい。

北九州	B	東京製鐵3千円の値上げ発表は動意づかず、冷静な対応である。安値は徐々に切りあがっているが、高値が上らず、メーカー値上げラッシュの中、採算面は低調である。ユーザーは忙しいが空中戦の気配濃厚である。現物在庫の動きは悪い。
	C	切断一次加工などは忙しくなっているが、素材販売は力強さに欠けている。しかし、H形鋼は在庫に歯抜けも出てきており、秋需に向け増加傾向になると思われる。メーカーから値上げもあり、販売価格値上げは急務である。
福岡	A	関東物件を中心に地域物件の話は出てきているが、現状、荷動きはまだ本格化していない。目先の物件を追うしかない。価格にしてもメーカーの一方通行でエンドユーザー等の状況を分かっていない様子である。値上げもさることながら、まともに安定供給も出来ない状況が続いている。メーカーの独断場になっている。また、このような状況の中、一部の販売店では安値販売の動きが見受けられる。もっと鉄鋼の状況を理解し、しっかりした販売をして頂きたい。今後は、販売店の廃業、倒産も余儀ない状況となっていくかもしれない。
	B	8月度は動きが鈍かったが、月末ぐらいから見積り引合いが多くなってきた。多品種、少量の案件がほとんどだった。自動車、半導体は来年まで忙しい状況である。宮崎で東京の仕事を受注したと情報がある。また、沖縄は元気があるので、9月以降に期待したい。倒産はステンレス流通が1件あった。